

# グリーントマト

発行責任者 中田慶子  
〒850-8799長崎中央郵便局 私書箱第7号  
FAX 095-832-8488 DV防止ながさき  
HP : <http://www.no-dv-nagasaki.net/>  
E-mail [dv\\_greentomato@yahoo.co.jp](mailto:dv_greentomato@yahoo.co.jp)  
郵便振替口座 01730-6-103415

新年あけましておめでとうございます。

昨年秋に、DV防止ながさきは15周年を迎えました。15年間活動を続けてこれましたのは、ひとえに皆様のさまざまなご支援のおかげと、会員一同、あらためて感謝申し上げます。

2001年に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」が制定されました。この法律は超党派の国会議員による議員立法で成立したもので、それまでまるで当たり前のように不問にされていた夫婦間の暴力についての初の法律です。各県へ配偶者暴力相談支援センターの設置が義務付けられ、地方裁判所は、被害者への接近禁止や加害者の自宅からの退去、つきまとい行為の禁止といった保護命令の発令をすることができるようになりました。しかし、被害者は保護されるようになったものの、それは被害者が逃げるという前提があり、本来暴力の責任を取るべき加害者への対策には手がついていないという点は、今後の法改正の中で、ぜひ是正していくべき点だと思います。

DV防止ながさきが発足したのは2002年の秋で、市民の立場からもこの法律を生かしていきたいと有志が集まり、それ以来、ささやかですが、相談電話の開設、若い世代へのデートDV予防教育、県と協働しての被害者支援活動などに取り組んできました。当時はDV(ドメスティック・バイオレンス)という言葉も一般的ではなく、DVをDVDと間違えられたり、高校生に予防教育をしないと提案すると、高校生で男女交際の話などとんでもない、寝た子を起こすようなものなどと叱られたりもしました。

今は、DVやデートDVの被害がとても深刻なこと、潜在的にとっても多くの被害者がいること、中には、殺人、傷害といった深刻な事件にもつながる場合が多くあることなど、一般の方々にも知っていただけるようになり、予防教育の必要性も多くの学校で理解されるようになりました。それでもまだ、暴力を受けるのは被害者側にも落ち度があるからだとか、結婚したからには子どものためにも多少の暴力は我慢すべきだなどの誤った思い込みが残っており被害者が相談できない壁となっています。

最近の脳科学の研究では、子どもが親のDVを目撃したり、暴言を浴びたりすることで、子どもの脳に大きな影響があることが明らかになってきました。そんなデータを目にすると悲観的になりますが、早い時期に安心・安全な環境に子どもを置くことで、子どもの回復ができることもわかってきており、将来の暴力の連鎖を断つためにも、すべての子どもにとって、安心・安全な環境で育つことがいかに大切かがわかります。



昨年は、国内でも国際的にも、さまざまなことがあり、気持ちの暗くなる年でしたが、唯一、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)がノーベル平和賞を受賞したことは、救いになるニュースでした。戦争、暴力、人権侵害のない社会を願うことに国境はなく、性別、民族の違いもありません。互いを尊重し理解する、ただそれだけのことがいかに難しいか。難しいからこそ、常に挑戦していかなければならないと思います。

今年がどうか穏やかな一年でありますようにと、心から祈ります。

理事長 中田慶子

## クリスマス会 & 15周年のつどいを開催 ♪ ♪ ♪ ～皆さんとともにこれからも～

12月16日、市内の会場で、会員とサバイバーの方達、子どもたちも含めて約30名が集まり、クリスマスの集いを楽しみました。

第1部のクリスマスミニコンサートでは活水大学名誉教授の永吉美恵子さんのソプラノのソロコンサートでいろんな歌を聴き、その後、永吉先生の指導で参加者全員での合唱。「雪の降る街に」「翼をください」「聖夜」など、参加者が吉永先生の一言ひとことにしっかり反応してどんどん歌が出来上がっていくのを実感し、歌い終わった時には体全体が暖かくなっていて、周りの人達を見たら皆さんとても明るい素敵な表情をしていました。第2部は会員でもありラフターヨガ認定ティーチャー山下紀美子さんの指導で「笑いヨガ」を体験しました。「はっ、はっ、ほっほっほ～」「やった～、やっ～た、いえーい」と身体を動かしながら声を出して免疫力がかなりアップしたみたいです。第3部のお楽しみ会ではケーキをほおぼり、くじ引きをしたりとあっという間の楽しい2時間でした。



背筋を伸ばして、  
口をもっと開けて～～♪



## 29年度九州各県婦人保護事業関係者会議に参加

11月16日、佐賀市内で九州各県婦人保護事業関係者会議が開催され、支援者の1人として参加しました。午前はお茶の水女子大学名誉教授の戒能民江先生の基調講演、午後には「DV被害者の離婚手続きに関する支援について」の分科会に出席しました。事例発表の後、意見交換が行われ、支援を行うにあたり、困難を覚えるケースについて話し合いました。共通に上げられたのは、加害者から避難できた被害者が再び加害者の元へ戻ってしまうケース(繰り返す場合あり)、また、知的にグレーゾーンの域にある被害者のケースでした。対応は個々に違いますが、大切なのは、被害者が何に不安を感じているのかを探り、少しでも不安が軽減するような工夫をしながら寄添える支援を目指そうと共通認識をしました。(M・O)

### ご報告：長崎市社会福祉協議会から表彰状をいただきました

11月19日、市民会館で行われた長崎市社会福祉協議会総会で、DV防止ながさきの活動に対して、表彰状をいただきました。感謝とともにご報告させていただきます。



## 全国女性シェルターシンポジウム2017in東京

去る9月30日、10月1日の両日「NO MORE VIOLENCE」というスローガンのもと、第20回全国シェルターシンポジウムが東京文京区シビックセンターで開催されました。長崎からは5名が、全体会（基調講演・シンポジウム）と各分科会に参加しました。今年の基調講演は、オルガ・トルヒーヨさんの「乗り越える力、当事者から見た暴力の影響とトラウマ」と題した講演で、とても心に残るものでした。

オルガさんは、米国の移民家庭で父親から母親への激しいDVの中で育ち、自身も父親や兄からの身体的、精神的、性的虐待を受け、その影響から解離性同一性障害となり、多くの困難や辛い治療を乗り越え生き抜いてきた方です。現在では、弁護士としての専門知識と被害当事者としての知見を活かし、いろいろな暴力への総合的アプローチを提案するコンサルタントとして活躍されています。講演では、ご自身の幼いころの写真を提示しながら、その時、その時の目線や感情のない表情など、トラウマのサインを細かく話してくださいました。暴力が起きた状況、その時の景色など、話を聞いている私たちも胸が苦しくなるほどでした。最後に、このようなトラウマで起こる当事者の様々な困難を支援する私たちに向け、「もどかしさを感じる事が多々あると思うが、当事者の苦しい状況で起きる様々な問題を決して治そうとはせず、もっともっと理解して寄り添ってほしい」との強い気持ちを話されました。

オルガさんの著書「私の中のわたしたち」、ぜひお読みください。（Y・K）

### 「DV根絶のための連続講座」今年も開催

長崎市アマランスと共催で11月26（日）、5コマの講座を開催しました。DVについて多くの方に知ってほしい、身近にDVの被害を受けた方がいたときに、適切な支援ができるように、社会全体から暴力がなくなるようにとという願いを込めての講座です。今年は約40人の参加がありました。



回	内 容	講 師
1	「DVってなに？」基本の知識を知ろう	NPO法人DV防止ながさき 中田 慶子
2	「DVと警察」 警察へ上手に相談しよう 世界の警察のDV対策は？	元長崎県警察本部刑事部長・生活安全部長 山下 忠義 さん ※コートジボワール、フランス、ペルー各国で 日本大使館に勤務 現在は親和銀行参与
3	DVD上映 「私の生は私のもの」	(DVD作成：ウィメンズハウスとちぎ)
4	「役に立つ法律」 DV被害を受けた時や離婚 する時に役立つ法律	わかば法律事務所 弁護士 伊東 浩子 さん
5	「一人親家庭を支援する」	ひとり親家庭福祉会ながさき 事務局長 山本 倫子 さん
6	「加害者更生プログラムとは？」	長崎加害者更生プログラム研究会 代表 宮本 鷹明 さん

## DV予防教育指導者養成スキルアップ研修2017

毎年恒例になっているDV予防教育指導者養成スキルアップ研修は、県の委託事業として今年も実施しました。8月3日（金）佐世保スピカ、8月22（水）長崎アマランス、の2か所で開催。参加者が実際に模擬授業をしてみる時間を増やし、より実践に近い形の研修会を実施しました。毎年更新している最新版のパワーポイントを使って、全員が真剣に、また和気あいあいと模擬授業に取り組みました。



### 「あたたかいご協力に感謝！」

☆7月に国際ソロプチミスト（S I）佐世保様、10月にS I長崎様から、それぞれ10万円の助成金をいただきました。各市での予防教育に活用しています。同じくS I諫早様では諫早市人権男女課と共催で予防教育を実施、S I大村様には予防教育（高校）ハンドブックの市内での配布分の印刷、S I佐世保パール様には、佐世保男女と共催で中学での予防教育の実施とハンドブックの印刷を負担していただいています。

☆ララコープ生協からも毎年特別補助金をいただき、今年は、「元気になるフラワーアレンジメント」を企画、30人近いお母さんと子どもたち、女性たちが集まりました。たくさんの美しいお花に囲まれ、好きな花材を選んでダイナミックな作品、繊細なやさしい作品など、個性豊かなアレンジメントができあがりしました。それぞれの個性を生かしてさらにステキになるように指導していただいた講師の先生にも感謝です。



### みんな集まれ！ ふくしの広場2017



恒例のグリーンコープ生協主催「福祉の広場」が11月15日に長崎新聞社ホールで開催され、当会も参加してデートDV防止のパネル展示と、DV防止授業をスライドで紹介しました。デートDVには日頃関心はあっても近寄りづらい方も気軽に立ち寄られ、娘さんが学校で授業を受け知識を共有したいと関心を持たれた人、少し心配だと相談をされる方もありました。好評のバザーにはサバイバーさんの売り手応援もあり、収益が1万円を超えました。作品づくりを手伝ってくださった皆様ありがとうございました。また、今年は手作りコーナーを設け、かわいいクリスマス柄の缶バッチ作りには人だかりができました。福祉の広場には他のNPOなど13グループが集まって互いの活動を紹介し、バザーや持ち寄った景品で抽選会をして楽しく交流することができました。

## 「DVに曝された母親と子どものためのコンカレントプログラム」研修報告

RRP研究会が主催した「DVに曝された母親と子どものためのコンカレントプログラム研修」に参加し、被害経験のある母子の気持ちを学び、改めて母子支援の必要性を感じた。児童虐待とDVの重複事例（オーバーラップ症候群）には、全米国家族の調査の結果では、DV加害者男性の53～70%が、子どもを虐待しており、シェルターでの被害女性の調査では45～70%が同居時に児童虐待を生じていたとの報告もある。また、男性が50回以上女性に暴力をふるっている場合、ほぼ100%に児童虐待があるとのこと。日本でも同様な数字ではないかと思われ、DV（暴力）がより弱い立場へ移行しているのを考えさせられる数字だった。

一番弱い子どもは、その場から自分の力だけでは抜け出せず、不安感や、悲しみ、怒りなどを表に出せずに抱え込んでしまう。そのために、子どもたち一人一人にも、自分を尊重してくれる支援者が必要である。支援者は、安定したアタッチメントを提供しなければならず、健康なスキルを増やす事や、問題行動で表現するのではなく社会的なつながりの回復が出来るように支援していくことが必要になっていく。

コンカレントプログラムでは、母子がそれぞれ安全計画について・感情について・暴力について・暴力の責任についてなどを学び、グループ体験を通して、互いに受容される経験を持ち、自分の経験を客観視できるようになる。

DV被害者の母子支援においては、長期的な介入や支援が必要であり、基本を尊重しながらも柔軟な力を支援者が持つことが必要だと感じた研修だった。（K.O）

## 「加害者更生プログラム」へのとりくみ ～加害者は変わるのか？



DV加害者は暴力を振るわないようになれるのか？。

被害者が安全に保護されるような法律ができて、加害者が暴力を振るわないように変わらない限り、被害者は安心して暮らすことができません。長崎でも準備が進んでいる加害者更生プログラム。そのようすを研究会のメンバーに聞いてみました。

加害者プログラム研究会は、2018年4月から、加害男性を対象にした非暴力プログラムを開始する予定で準備を進めています。これまでさまざまな勉強会を重ねてきており、2017年10月には、2日間にわたり、DV加害者プログラムファシリテーター養成講座～実践編～を開催しました。参加者は両日ともに15名ほどで、講師は東京のRRP研究会(原宿カウンセリングセンター)に所属する心理士の荻田博深さんと、野村こずえさん。お二人とも、10年以上前からDV加害者の非暴力教育プログラムに携わっておられるベテランです。加害男性の考え方や言動に対して、具体的にどうかかわるか、パートナーへの共感をどのように促すか、などプログラムを運営してうえで必要な知識を学びました。

「被害者支援の一環としての加害者更生プログラム」に、多くの方が関心を持ってくだされば嬉しいです。（加プロ研究会 副代表 佐藤）

## 今後のイベントのご案内 HPでもご案内する予定です

☆2018年3月18日 デートDV防止スプリングフォーラム開催 会場：虎の門・日本財団ホール  
内閣府や厚生労働省、警察庁からの報告、基調講演(打越さくら弁護士)、各県での予防教育の実践状況や現状調査報告、各団体の予防教育の手法交換、などが予定されています。また90団体ほどが参加して、デートDV防止全国ネットワークを結成し、全国どこに住んでいても、DV予防教育をすべての生徒が受けられるように、国へも働きかけていこうとしています。



### お勧めの本

○「私の中の私たち～解離性同一性障害を生きのびて」オルガ・R・トルヒーヨ著  
性暴力による被害の深刻さと同時に、人間の回復力のすばらしさも感じられるオルガさんの自伝です。

○「トラウマをのりこえるためのガイド～マインドフルネスとメンタライゼーションの実践」創元社  
題名は難しそうですが、トラウマから回復するためのマインドフルネスのエクササイズの方法を、自分でもできるようにやさしく解説している本です。

○「子どもの脳を傷つける親たち」友田明美(児童精神科医)著 NHK出版新書  
支援活動なかで、子どもへの暴力の影響を肌身で感じていたことが、最新の脳科学による研究の結果、明らかにされてきています。子どもに関わる仕事の方には、ぜひ読んでほしい一冊です。

○「ブラック・ボックス」伊藤詩織著 文芸春秋  
レイプドラッグによって意識をなくし性暴力を受けた女性が、何が起きたのを明らかにしています。

○「母・娘・祖母が共存するために」信田さよ子著 朝日新聞出版  
“娘・母・祖母の3世代と家族を射程に入れて、解決の方向性を探る、母娘問題の第一人者による力作”～と本の帯にある通り、重たい母から解放されるシリーズの最新作。母が重いと感じて罪悪感に悩む女性は意外に多いのですが、信田さんの本を読むと肩の荷が下りる感じがします。

### 共感寄付のお願い ♡ 3月いっぱい今年度の共感寄付受付は終わります。

いつもご協力いただいている共感寄付。今年度も、寄付控除を受けることができる「認定NPO法人」である「NPOながさき」を窓口にする事で、寄付をする方に税控除のメリットがある「共感寄付」に参加しています。これまで3年連続で「DV被害を受けた母子の支援の充実」のために寄付募集をしてきましたが、この3月で終了します。2017年度は、Moshyw(セクハラ防止の団体)、音浴博物館、DV防止ながさきの3団体が共感寄付で寄付募集をしています。詳細は同封の黄色いパンフレットをご覧ください。

### DV防止ながさきの電話相談 ～ 必要な方へ情報が届いてほしい！

暴力を我慢する必要はありません。週3回、夜も電話を受け付けています。何度かけても構いません。秘密は守ります。名前を言う必要はありません。とにかく話してみませんか？ 夫や恋人との関係、今のこと、昔のこと、心にひっかかっていることを話してみてください。必要があれば専門機関へつなぐこともできます。

(面接は要予約です。安全な場所でお話をうかがいます。)

月・水・土 13:00～17:00 月・水 19:00～21:00 095-832-8484  
火 16:00～20:00 080-2794-8022